

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

その日は曇っていた。沖の方が暗くて、夕立が来そうなケハイもあった。^①僕は沖の方に向いて釣っていたのだ。防波堤の外側と内側とは、その日によって釣れ方がちがうし、また釣れる魚の種類もちがう。その日は外側の方が当りが良くて、皆そちら側に竿を出していたというわけだ。

その子供たちは、餌を使い果たしたのか、人の魚籠を見て廻ったり、脚を組んで沖を眺めたり、そんなことばかりしていたんだが――、ふと僕は餌をつけかえようとして、傍の餌箱を見た。するとゴカイがいなくなっている。

まだ十匹余りいた筈なのに、それが、二、三匹になっていて、その二、三匹も箱のふちにひっかかって、だらしなく伸び縮みしている。

盗ったな！僕ははっと四辺を見回した。その子供たちは、内側の方に腰かけている。ふり返って僕を眺めていたら、小さい方の子供の視線と、僕の視線がバツと合った。急におびえた表情になって、視線を外らして、すこし身体を兄の方にずらすようにした。兄の方は、黙って釣糸をタれたまま、じっと浮子を眺めている。

さっきまで釣りは止めて、そこらをウロチョロしていたし、またぼんやり海を眺めていたではないか。今海面を見詰めている兄の硬ばった顔は、痛ほど僕の視線を感じているに違いないのだ。僕は 1、暫くじっとそこから視線を放さないでいた。僕はそれに気をとめないでいたのだ。あの足音は至極かかった。そうか。餌を盗るのに、弟を先に使ったな。そう僕は判断した。僕はそっと立ち上がった。弟がその僕をちらと横目で見た。僕は竿をたたくで帰る支度をした。餌箱を魚籠にしまい、かぶっているムギワラ帽の中から煙草とマッチを出し、火を点けた。それからそろそろと子供たちの方に近づいた。

僕が近づく、二人は急に緊張したようだった。かたくなに僕の方を見ないようにして、ことに弟の方は背をかたくして、あきらかにおそれに満ちた表情でそばを向いている。子供は餌箱の中には、僕のと大体同じ型の同じ大きさのゴカイが、ぐにやぐにやともつれ合っていた。そして子供は浮子がビクッと大きく動いた。

「そら、引いてるじゃないか」

そう僕は言いかけて、途中で止めた。兄は釣竿を上げようとはしない。じっとしている。浮子が動かなくなつて、それからそろそろと竿を上げた。糸の先は針ばかりになっている。餌をとられたのだ。

「バカだな。しっかりしろ」

そう言おうとして、僕はやはり言わなかった。向うも内心ジタバタしているが、別の意味でこちらもジタバタしている。その意識が急に僕の口辺を硬ばらせた。僕はそのまま背を向け、振り返らず、まっすぐに防波堤を岸の方に歩いた。防波堤は岸に近づくにつれて低くなり、満潮時だから海水に没している。膝頭までひたす海水を、はねのけるような気持ちで進みながら、何だかやり切れない感じがしだいに強くなって来た。子供たちからなめられたような気がしたのか、子供の所業がしやくにさわったのか、またその所業を見逃した自分がやり切れなかったのか。そしてあいつ等は、餌を盗むのに、沢山の中からよりによってこの俺をえらんだ。 2 矢を立てたのか。そういうことを考えることは、あまり愉快なことではなかった。連れでもいたら、その連れに話すことで、幾分気持は軽くなるだろうが、僕はその時ひとりだった。口下手な僕は、ことにその頃は性質も湿っていて、防波堤でもどの常連とも会話すら交わしたことはなかったのだ。

まあその日から一週間ばかり経った。やはり曇ったような天気の日ばかりだった。前の日とちがって、魚の当りが悪かった。潮加減がよくなかったのだろう。僕は朝から釣れないでいい加減くさっていた。その上岩にひっかけて、糸を何本も切らしていた。昼の弁当を食い終っても、僕の魚籠はほとんど空だった。そこでもう今日は止めて帰ろうと思ったのだ。

そしてふと振り返った時、そこにこの間の子供がいたのだ。この前と同じように、兄弟並んで、ぼんやりと海を眺めている。その僕は、ほとんど無意識に、そして彼等に気付かれないように、自分の餌箱を脇に引き寄せていたのだ。次の瞬間、その自分のやり方が急にあららしく僕に反発してきた。 3 れいのジタバタが始まった。

「ふん」

と僕は思った。そんならあの子供たちに、今日はこちらから餌をわけてやる。そんな思いつきとたんを頭をかすめた。もうどうせ帰るのだから、残りのゴカイは不都合なわけだ。ゴカイというやつは、とても条件を良くしないと、翌日まででもないのだ。

僕は立ち上った。餌箱をぶら下げて、ためらわずに兄弟に近づいて行った。

足音を聞いて、兄弟は振り向いた。警戒するように二人の表情は突然さどくなった。兄の方は、よりそってきた弟をかばうように、身体を動かして構えた。その兄の眼付きは、僕をたじろがせるほど烈しかった。

「餌をやるうか。え？」

⁵ さり気なく言ったつもりだが、あるいは兄弟はその語調のうらに、なにか底意を感じたのかも知れない。

「餌がないのだろう。いらんのか」

子供の傍の餌箱は空で、底には少量の泥がかさかさ乾いている。兄は 3 の色をますます深め、じっと僕をにらんでいる。弟の方の顔はしだいにくずれて、今にも泣き出しそうな顔になった。しかし泣き出しはしなかった。眼をキラキラさせて、唇を噛みしめている。僕はしだいに自分のこんなバカな思い付きを後悔し始めていた。しかしこのままではひっこみつかない。僕は少しいらだてて来た。

「餌、欲しくないのか」

笑って見せようとしたが、笑い顔にならなかったかも知れない。僕は餌箱を眼の前につき出そうとした。その時突然、兄の方がいやにはつきりと答えた。

「いらん！」

そうか、と僕は言い、しかし俺はもう帰るし、どうせ餌は捨てるんだから、要るのなら置いてゆくよ、とまだ言い終らないうちに、

「いらん」

とも一度兄が言った。ほとんど同時に弟が唇を曲げるようにして、

「いらんぞ」

とつけ加えた。兄の声は、前ほどつけんどんではなく、やや弱々しくひびいた。そうか、としかし僕もすこしむつとした。しばらく視線を合わせていたが、僕は突き出した餌箱の恰好がつかず、そのままゴカイを放り出すようにして海面に捨てた。三人の 4 は一度にその方に動いた。

赤くもつれ合ったゴカイは、ひとかたまりのまま緑色を帯びた海水に落ち、そこでやわらかくほぐれ、数条の赤い模様をつくり、美しく伸び縮みしながら、しずかに沈んでいった。沈んで見えなくなるのを見届けて、僕は子供に背を向けた。

海沿道を歩いて帰りながら、僕はしだいに心が重かった。そして僕はあの貧相な兄弟のことをやはりあれこれと考えていた。たとえばあの子供たちは、父が居ない、母親だけのうちじゃないのか。そして彼等が釣って来る魚が、重要な家計の足になると言ったような。いつも餌を使い果たしているのも、充分に餌を買うだけの余裕のないやりくりではないのか。

しかしそれはことごとく、僕の感傷のジタバタだったんだらう。つまり現実の摩擦を避けるために、僕の打った手が、逆に僕を惨めにしだに過ぎなかったのだろう。そしてその日以来、僕はその防波堤に行くのを止めた。釣り場を他に移してしまつたのだ。だからその子供たちとも、もう顔を合わせたことはない。 7 (梅崎春生「魚の餌」より)

問1 ―線①「ケハイ」、―線②「タ(れた)」のカタカナを漢字に直し、―線③「空」の読みかたをひらがなで答えなさい。

問2 ―線1「急におびえたりずらすようにした」の部分から読みとれる「弟」についての説明としてもつともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 餌を盗ったことがばれているのだと思い、兄に助けを求めようとしている。
イ 餌を盗ったことがなぜとめられるのかわからず、兄と共に戸惑っている。
ウ 餌を盗ったことがばれているのかいなのかを、兄に尋ねようとしている。
エ 餌を盗った覚えはないのに疑われ、こわくなって兄と逃げようとしている。
オ 餌を盗ったのが既にばれてしまっていることを、兄に教えようとしている。

問3 ―線2「弟の方は、向いている」について説明した次の文のへにあてはまる一文を文中からぬき出し、その最初の五字を答えなさい。

この一文はへ 〽という「僕」の判断が確かなものであったことを裏付けている。

問4 この文中からは次の文が脱け落ちている。どこに入れるのが適当か。その直後の五字を答えなさい。
そう言えば先刻、僕の傍で何かかすかな音がした。

問5 1 に入るのにもつとも適当な言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 我慢強く イ 遠慮なく ウ 何げなく エ 意地悪く オ 愛想よく

問6 2 に入るのに適当な言葉を二字で答えなさい。

問7 ―線3「兄弟並んで、ばんやりと海を眺めている」の説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 餌が一匹もないので、なす術もなく立ちつくしている。
イ 潮加減がよくないので、潮の変化に気をとられている。
ウ 魚が一匹も釣れないことにたじろぎ、呆然としている。
エ 「僕」が近づいてきたことに気付かないふりをしている。
オ 魚を釣ることをあきらめ、海の美しさに見入っている。

問8 ―線4「その自分のやり方が、反発してきた」とはどういう意味か。もっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 兄弟に対する嫌悪感を態度に表してしまった自分が嫌になっている。
イ 兄弟の罪を許しそのうえ好意的にふるまっている自分に驚いている。
ウ 兄弟と直面することを思わず避けてしまった自分に腹を立てている。
エ 兄弟からなめられないように虚勢を張っている自分を嫌悪している。
オ 兄弟を目前にしてすきを見せてしまった自分が情けなくなっている。

問9 ―線5「さり気なく、かも知れない」とはどのようなことか。もっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 優しい言葉をかけたことで、この兄弟がすでに許されているのだと勘ちがいをしてしまったかも知れない。
イ すきを見せるつもりはなかったのだが、この兄弟を恐れている気持ちを彼らに見透かされたかも知れない。
ウ 投げやりな口調で話してしまい、最初から兄弟の盗みにこだわっていないことに気付かれたかも知れない。
エ 表面に出さないようにしていたのだが、兄弟の貧しさに驚いていることを悟られてしまったかも知れない。
オ 盗まれた餌のことに触れるつもりはなかったのだが、兄弟にとっては当てこすりに聞こえたかも知れない。

問10

3

に入るのに適当な二字の言葉を文中からぬき出さない。

問11 ―線6「僕はしだいに、後悔し始めていた」とあるが、「僕」が「後悔」しているのはどのようなことか。もっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 柄にもなく自分の方から兄弟に働きかけることで、これまでの不快感をぬぐい去ろうとしたこと。
イ 兄弟に対してあえて下手に出ることで、かえって彼らと和解するきっかけを逃してしまったこと。
ウ 強引にこの兄弟に近づいていったことで、彼らが自らの罪を告白する機会を奪ってしまったこと。
エ これまであえて触れてこなかった兄弟の行為をただし、この一件に決着をつけようと考えたこと。
オ いつになくこの兄弟に気さくに話しかけたことが、彼らを余計つけあがらせる結果を招いたこと。

問12

4

に入るのに適当な二字の言葉を文中からぬき出さない。

問13 ―線ア～オの「ように」のうち、次に挙げる文の傍線部の「ように」と同じ意味で使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。

私は早実^に合格できるように必死に努力した。

問14 ―線7「現実の摩擦を、過ぎなかった」とあるが、僕のどのような性質がこのような結果をもたらしたのか。その性質が書かれてある一文をぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問15 この文章から読みとれることとしてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア この兄弟が魚の餌を盗んだのに違いないという確信を、言葉ではなく態度で示そうとする「僕」の陰険なやり方に、兄弟はかたく心を閉ざしている。
イ 兄弟の行為を激しい口調で非難し、盗みという行為に及ばざるを得なかった事情を察してやろうとしない「僕」に対し、兄弟は猛烈に反発している。
ウ 兄弟の行為をとがめる訳でもなく、さりとて許す訳でもない「僕」の煮えきらなさが、結果として両者の関係をよりぎくしゃくしたものにしている。
エ 口下手な自分を意識するあまり、どうにもこの兄弟に近づくことができない「僕」の弱さが、逆に兄弟からやりこめられてしまう結果を招いている。
オ 盗みという行為に及ばざるを得なかった事情を察し、あえてこの兄弟をとがめなかった「僕」の柔軟な対応が、両者の間の緊張感を和らげている。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権上の都合により未掲載

問 1 — 線 ① 「デンショウ」、② 「リキ」、③ 「セイトウカ」のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 — 線 (1) 「所以」、(2) 「ウラハラ」の意味としてもっともふさわしいものをそれぞれ次のア～オから選び、記号で答えなさい。

(1) 「所以」

ア 現象 イ 理由 ウ 目的 エ 要素 オ 時代

(2) 「ウラハラに」

ア あきらかに イ あざやかに ウ あいまいに エ あやふやに オ あべこべに

問 3 — 線 1 「西欧文明の勝利は、文字どおり戦場における勝利でした」とはどういうことか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 戦争のもたらす悲劇によって人々は西欧生まれの科学技術に疑いを持つようになったこと
イ 西欧文明のもたらした軍事的な勝利によって戦争自体が世界中に広まってしまったこと
ウ 科学技術の急速な進歩によってヨーロッパ大陸は新兵器の実験場になってしまったこと
エ 西欧の軍事技術は戦争好きな人々を夢中にさせ科学技術への強い信頼を生じさせたこと
オ 西欧の科学技術の成果をいち早く取り入れた者が戦争で圧倒的に勝つことができたこと

問 4 — 線 2 「このような軍事作戦」とあるが、この「作戦」の特徴はどんなことか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 鉄を利用する技術を初めて取り入れたこと
イ 鉄でできた新しい武器を大量に使用したこと
ウ 単独の軍隊に対して連合軍で戦ったこと
エ 鉄砲の知識と技術を持った外国人が存在したこと
オ 相手より生産力がわずかに上まわっていたこと

問 5 — 線 3 「二つの矛盾した要請を生み出しました。ひとつは国民国家の確立、もうひとつは情報の国際化です」とあるが、次の①、②の問いに答えなさい（句読点等の記号も一字とする）。

① この「矛盾した要請」の内容を言いかえている一文を文中からぬき出し、その最初の五字を答えなさい。
② 「情報の国際化」とあるが、「情報の国際化」はなぜ「要請」されるのか。文中からその理由が説明されている三十五字の部分を解答欄の「ため」に続く形でぬき出し、その最初と最後の五字を答えなさい。

問6 — 線4「特殊な軍事技能」とはどういうものか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 鉄砲を製造するための技術 イ 個人の戦闘技術や能力 ウ 近代兵器のあつかい方
エ 新しい技術に対する情熱 オ 主人に対する忠誠心

問7 — 線5「猿」とはどういうものをたとえた表現か。文中から十五字以内の部分を読み出し、その最初の五字を答えなさい。

問8 — 線6「害れるもの」とはこの場合何を指すか。もっともふさわしいものを文中の〳〵線ア～オから選び、記号で答えなさい。

問9 — 線7「核兵器は使用することのできない兵器です」とあるが、筆者が「使用すること」は不可能であるとはっきり述べている理由は何か。解答欄の空所を八字以上十字以内で補って答えなさい。

核兵器を使用すると

問10 — 線8「その天職」とはどういうものか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 実用性の追求 イ 科学者としての試練 ウ 好奇心に従った研究
エ 機密保持のシステム オ 国民としての責任

問11 — 1 に入る小見出しとしてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 科学文明の人間の側面 イ 科学技術は両刃の剣 ウ 科学技術の必要性
エ 消えゆく科学文明 オ 科学技術を信頼しよう

問12 — 線9「次々と殺人を犯す怪物をつくりだしてしまい、最後には自分もやられてしまうという物語です」とあるが、この話は、科学技術に関するどのような問題点について述べているのか。そのことを説明している部分を――線9より後の部分から三十字で抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい（句読点等の記号も一字とする）。

問13 — 線10「自分の実感」とはこの場合どういうものか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 戦争に協力してしまった
イ 多くの人々を殺してしまった
ウ 戦争を早く終わらせることができた
エ 無心にひたむきに研究してきた
オ 他国の科学者に勝つことができた

問14 — 線11「自らの社会性」とはこの場合どういうことか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の研究成果が思いもしない悪影響をもたらす場合があること
イ 自分の研究を始める前に、政治や社会に関心をもつ必要があること
ウ 自分の業績のほとんどは他の科学者との共同作業の結果であること
エ 情報の国際化によって科学者は世界中に目を向けることができること
オ 科学研究はもともと人類の幸福や豊かさとは無関係であること

問15 — 線12「政策決定」とはこの場合どういうことか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 大統領や軍人に着実な科学技術の進歩を示すこと
イ 科学技術の成果の使い方を適切に判断すること
ウ 政治的、経済的効果とは無関係に研究を進めること
エ 科学者が以前よりも積極的に政治家に注文を出すこと
オ 科学者として戦争に反対の立場を常にとり続けること